「近年の平均漁獲実績」のシェアの算出について

資料8

- 令和６年９月24日の第10回くろまぐろ部会において、審議の参考として、他のＴＡＣ資源で基本的に用いられている「近年の漁獲実績」を使用した2021-23年の平均漁獲実績のシェアを用いた場合の配分（試算②）を提示。
- 一方、「近年の平均漁獲実績」のシェアの算出については、試算②で用いた手法と他のＴＡＣ資源で基本的に用いられている手法との間には以下のような違いがある。

＜試算②の手法：「その管理区分の漁獲量の３管理年度の総量」を「全体の漁獲量の３管理年度の総量」で割ることで算出＞

（2021管理年度のその管理区分の漁獲量＋2022管理年度のその管理区分の漁獲量＋2023管理年度のその管理区分の漁獲量）÷（2021管理年度の全体の漁獲量＋2022管理年度の全体の漁獲量＋2023管理年度の全体の漁獲量）

＜他のＴＡＣ資源で基本的に用いられている手法：管理年度ごとに全体の漁獲量に占めるその管理区分の漁獲量のシェアを算出したのち、３管理年度分のシェアの平均値を算出＞

｛（2021管理年度のその管理区分の漁獲量）÷（2021管理年度の全体の漁獲量）＋（2022管理年度のその管理区分の漁獲量）÷（2022管理年度の全体の漁獲量）＋（2023管理年度のその管理区分の漁獲量）÷（2023管理年度の全体の漁獲量）｝÷３

- そのため、変更後の「配分の考え方」の案では、「近年の平均漁獲実績」のシェアの算出も他のＴＡＣ資源で基本的に用いられている手法とすることとする。
- 参考まで、手法の変更に伴う「小型魚・大型魚の直近３か年（2021-2023年）の平均漁獲実績のシェアを用いた配分」の大臣管理区分と都道府県の数量の変化は次スライドのとおり。

「近年の平均漁獲実績」のシェアの算出について

	第10回くろまぐろ部会で示した試算（試算②）	他のTAC資源で基本的に用いらている計算方法による試算	
小型魚	直近３か年（2021-2023年）の平均漁獲実績のシェアを用いた配分	直近３か年（2021-2023年）の管理年度ごとの漁獲実績のシェアの平均を用いた配分	増減
大中型まき網漁業	1,139.4	1,137.3	▲ 2.1
かじき等流し網漁業等	47.4	47.3	▲ 0.1
かつお・まぐろ漁業	48.9	49.9	1.0
都道府県（沿岸漁業）	3,061.3	3,062.5	1.2
留保	110.0	110.0	
全体	4,407.0	4,407.0	

大型魚	直近３か年（2021-2023年）の平均漁獲実績のシェアを用いた配分	直近３か年（2021-2023年）の管理年度ごとの漁獲実績のシェアの平均を用いた配分	増減
大中型まき網漁業	4,907.2	4,904.2	▲ 3.0
かじき等流し網漁業等	23.5	23.1	▲ 0.4
かつお・まぐろ漁業	928.7	925.3	▲ 3.4
都道府県	2,411.6	2,418.4	6.8
留保	150.0	150.0	
全体	8,421.0	8,421.0	